

反応

出だしからインパクトがありました。予想だにできなかった言葉でしたので、聞いていた私もびっくりしてしまいました。

「皆さんは無視をされたことがありますか。」

あるクラスの朝の会で、前に出ていった級長がいきなり発した言葉です。びっくりしたのは私だけではなかったようで、目と耳を向けていた学級の仲間も、ポカンとしていました。

「私は昨日無視をされました。すごく悲しかったので、皆さんもしっかり反応しましょう。」

級長はこれだけ語って席に戻りました。話としてはこれだけでしたので、この級長の言った「無視」がだれとの関係において生まれたものなのか、どんな状況の時のことなのかなど、具体的にわかりませんでした。

最後に「反応」という言葉があることからすると、友達関係においての無視というより、集団の中で働きかかけても仲間からの手応えがなかったということのかなと私は想像しました。また、仲間の前で堂々と語る級長の姿から、「無反応を何とかなくしたい」という情熱が感じられた分、深刻な状況ではないということが想像でき、少し安心しました。

しかし、学級の仲間はいきなりの発言にあっけにとられ、級長の話した内容にどう反応してよいか戸惑っていたようです。言葉足らずの話でしたが、仲間に大きな一石を投じたということについては聴きごたえがありました。聞きたくなる話だったことがすばらしいと思いました。

課題は「悲しかった」という自分の思いを具体的に語ることです。もちろん語りにくいこともあるでしょうが、「悲しかった」という一言で済みますのではなく、「自分が言ったことはみんなに聞いてもらえたのだろうか」「みんなはどう思ったのだろうか」「悲しむか」というように、自分の心の動きを細かく語ると「悲しみ」がより伝わります。

「級長の話」の後に、「先生の話」がありました。私は次に担任に興味をもちました。級長が語った、短いけれどインパクトのある内容について、担任としてどのように反応するのだろうか、級長の話と全く関係のない話題で話したら、校長としてその担任を後から注意しよう、そう思っていました。

生徒の前に立った担任は、見事に級長の投げかけた話題について話し始めました。級長の話が言葉足らずだった分、噛み砕いて自分の言葉で生徒たちに語りました。生徒たちは先ほどと違い、担任の言葉をかみしめるように聞いていました。

級長の話に担任が見事に反応しました。これこそが反応の手本だと担任が見事に姿で示したように私は感じました。